

第4回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成27年10月20日（火）18時30分～
会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 23名（欠席13名）
事務局 7名

1 会長あいさつ

10月下旬で朝夕は若干涼しくなったが、日中は暑い日が続く。皆様はご健勝にお過ごしのことと思う。先日、事務局より最終案の資料をいただいたが、人口ビジョンについては、アンケート結果と人口の将来展望について追加され、総合戦略については新規事業の提案と数値目標が表示された。前回までのまちづくり市民協議会の皆さんの提案も反映されていることと思う。今日はその点について事務局より説明をいただいた後で皆様方から質問・意見をいただきたい。本日は各委員の皆様には一言は発言できるよう事務局には配慮をお願いする。

2 連絡事項

事務局より本日の議事の進め方について説明

- ・本日の議題は「光市人口ビジョン最終案及び光市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について」、「第2次光市総合計画について」の2点である。
- ・事務局からの説明の後、皆様から意見を伺う。
- ・全体会議終了後、時間の許す方については、座談により意見交換の延長戦を行う。

3 議題

(1) 光市人口ビジョン最終案及び光市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について
事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

※人口ビジョン及び総合戦略の審議は今回が最後であるため、委員全員から1人1分程度で意見を伺う。

●委員

理想の2.07という数字について、これは人口で言うと36,411人という数字と見てよいのか。世帯で言うとどれぐらいの世帯と考えているのか。

母親の小さな創業の話について、家庭の貧困が教育の貧困に繋がらないようにということが一つの大きな問題だと思う。母子家庭、父子家庭の支援も入れてほしい。

人を惹きつける条件には2つあり、一つは安定した仕事、もう一つは良質な公教育であると、とあるテレビ番組の中で専門家が言っていたことが印象に残っている。

●委員

人口が減少して高齢化率が高くなる。光市の安心・安全や地域の福祉については元気な高齢者が担い、若い人は会社等で働くので日中は高齢者だけの地域もある。従って安心して光市に住むことができるようにするため、病気に対する健康管理をするために病院を経営するとともに、若いお母さんが安心して子供を育てることができるようにしなければならない。医療と福祉が充実した光市になればよいと思う。

●委員

全体を通してみて素晴らしい総合戦略だと思う。先日テレビで見たら今、都会から地方に移住したい若者が結構多いそうだ。東京にUターンの相談窓口があり、周防大島町が町の魅力をアピールする場所があるそうなので、光市も住みやすいところなどを東京で情報発信を強化したら全国的に広まって良いと思う。

●委員

それぞれに数値目標があげられているが、数字の根拠がわかりにくいので教えてほしい。また、学校教育の関係を見ていて、27ページの基本戦略④について、「光市民学」の作成と活用、「市立学校の将来のあり方の検討」が入っているが、これが大きな目玉であると思う。中身がどういうものになるか興味があるが、新たな視点で良いと思う。

一方で、ここに掲げられた主な取り組みの項目について少し整理する必要もあると思う。ここには学校・家庭・地域の連携による教育、地域ぐるみの教育によりどのような効果を生み出すのかについて書いてあると思うが、例えば「奨学金や就学援助など就学支援の推進」や「新入学児童への記念樹の贈呈」といった項目についてはわかりにくい。これが地域ぐるみの教育とどのような関係があるのかわかりにくい。

また、「子どもの地域貢献活動の推進」について、下段には「クリーン光大作戦など青少年の奉仕活動や体験活動等への参加促進」という項目もあり、施策目標にも似たような内容のものが二つにまたがっているのでわかりにくいと思う。したがって項目がわかりやすいように整理が必要であると思う。

●委員

本日の配布資料の中に本協議会での意見の反映状況についてまとめたものがあり、わかりやすくとても良いと思う。その他の資料についても最終案のところに課題などがわかりやすく表記されていたので良いと思う。会議の中で色々な人の話を聞いて、「光市には何もないから良い」といった意見を聞く中で、色々な視点が必要なのだと気づかされた。

●委員

ラジオを聴いていたら子供目線での話があり、お金がある家の子は大学にも行けて十分な教育を受けることが出来るが、ない場合はどうしたら良いかについて、地域の自治体にどうにかしてもらえば良いという意見があった。子供がかなり地域や自治体に期待を持っているようだ。また、新たに光で仕事をする方に対する住宅の供給など色々な面で施策をやっていく必要があると思う。例えば空き家バンク登録物件を無償で貸し

出し、土地を購入する人に対する光市としての優遇策、市営住宅など市が有する施設について融通をきかせて提供する必要があると思う。

●委員

毎年行われている駅伝について、最初は光市一周駅伝であったが、段々と縮小されて光井から浅江までを回るだけになっている。地域の運動会についても世話人が減って取りやめになってきている。島田は辛うじて続いているが、毎年「もうやめよう」という声が出ている。子育てを地域ぐるみでやったら良いという意見があるが、このように段々と行事が縮小され、ラジオ体操も殆どなくなっている。地域の行事に親も子供も参加しない流れになっており、一生懸命お世話する人はやっているが、無関心な人も多い。その人達をどのように引っばってくるかについて頭を悩ませている。

また、光市は大型ショッピングモールを誘致することは無理だと思うので、「住みやすさ」を求めているほしい。買い物は車でよそに行くけれど、「住むのは光市がいいね」となしてほしい。具体的な施策は思いつかないがそのような地域になればいいと思う。

●事務局

理想の子供の数「2.42」はアンケート回答者の平均値である。家庭の貧困問題については、結婚・出産・子育てのあたりにも政策の中で、各種支援制度をあげているが正面からこの問題に対してどう向き合うかという所までは踏み込んでいないのが現状である。

都会からの地方への移住について、県が東京に設置している移住情報センターでは県内の情報を集約して発信しているの、現状はこの場を活用して情報発信しているのが現状である。先般、移住のセミナーにおいて職員を派遣し個別相談会を実施した。

数値目標の数字の根拠について、関係所管から出てきたものを集約して載せている。現行の他の計画との整合を図るものや、総合計画を見据えた目標などがある。例えば、18ページの転出者数について、これには平成37年に転出入数の均衡を図るという大前提がある。それぞれ一定の考え方をもって設定しているところである。

主な取り組みの整理について、取り纏めの中で我々が見落としした部分もあろうかと思うので再度確認したい。

空き家バンクについても、今年度から事業を開始したが、利用者のニーズ等も踏まえて改善していきたい。

「住みやすさ」について、アンケート等を見ても光市のことを「住みやすい」と感じている方が多くなっている。これも本市の大きな強みであるので、総合戦略や総合計画を作る中でもそのような視点をもって取り組んでいきたい。

●委員

アクションプランについて、うまくまとめていてわかりやすいと思った。発信についてが気になって光市の魅力や独自性をアピールすることに力を入れるべきだと思う。今後計画していく中でも、発信することを自分たちで提案することが真の市民の力になると思う。私自身にとっても勉強になった。

●委員

協議会の意見の反映状況がわかりやすく良かった。子供が減ることはしょうがないと思う。若者がよその学校に行けばそこで就職して帰ってこないのも、やはり就職先がないことが問題である。雇用の創出が大事である。よそから来る人に光市の環境はアピールできて仕事がないと難しいので、住むところだけでなく、働く場の確保が必要だ。

●委員

都会からの転入者数「平成31年度に400人」という数値目標を設定した根拠を教えてください。先日、とある講演会の中で「地消地産」というフレーズが出ていた。地元の消費を出来るだけ地元の産品に向かわせようということだ。

この計画を見ていると、第1次産業に係るビジネスの観点が認識できない。大規模化や法人化等も含めて就労される希望がある都会の方、地元の教育の中にそのような視点を取り入れられないか。もっと地元の農業、漁業に親しみを持ってもらい、地元の産業の担い手に繋がるような要素があっても良いと思う。魅力あるまちにするためにはまだ他の要素もあると思う。

●委員

県の計画と整合をとった現実的な人口の目標値を設定してもらい、感謝申し上げる。

施策について、県では東京、大阪と新山口駅前にUJIターンの相談窓口を設けている。また、会員制の結婚相談所も立ち上げているので連携して取り組みを続けていただきたい。数値目標について、具体的な施策を出してもすぐに効果が出るものでもなくなかなか難しいと思うが、長い目で見てしっかりと計画を立ててやっていただきたい。「人口オーナス」の意味がわからないので教えてください。

●委員

15ページのアクションプランの中で「県や大学等と連携した若者の地元定着の支援」という項目があるが、県では関東や関西の大学と協定を結んで学生向けに情報発信をしているのでそういったツールを活用して、光市をアピールして若者が帰ってくるようにしてほしい。

「就労・雇用に関する情報提供や相談の充実」という項目について、協議会での意見も踏まえた上で設定していることと思うが、色々な関係機関とのつながりもできているので労働条件の改善方法や職場定着方法等のノウハウも紹介しながら勉強できる機会を増やすことも若者が地元で定着する一つの手段ではないかと思う。

●委員

反映状況の中で「お母さん方の小さな創業への支援」が15ページの「創業と新しいチャレンジへの支援」につながって目標値が設定されているがその根拠を教えてください。周南市は市の補助制度が充実しており、件数が出ている。創業するなら光でやるよりも周南でやった方がよいとの声も聞く。そのあたりの充実も図っていただきたい。

●委員

人口ビジョンについて、目標が高いのではないかと思う。それで大丈夫なのかと不安

である。この場に集まる人の意識は高いが、一般の方がこの問題を自分の問題と捉えているのかは疑問である。この総合計画をいかに市民に知らせるかが重要である。光市がやっていることをもっとアピールしてほしい。

●事務局

転出者数の根拠については現状の数値を踏まえた上で、本戦略の根本が大都市圏から人を呼び込むことであるから、ここに力を入れて戻ってくる人の比率を高めようという観点で設定したところである。

「人口オーナス」については「ボーナス」の対義語である。人口が増えて経済が発展し、さらなる人口増加を生むところの反対で、人口が減って経済が縮小し、さらなる人口減少につながることを「人口オーナス」と言う理解している。

市民へのPRについてはご意見をいただいたとおりであるので、そのあたりも気を付けていきたい。

●委員

光市には二つの産婦人科があり、市外からも多くの方がこれらの病院で出産されると思うので、そうした人に対して光市の住みよさ等を紹介し、移住を促すようなPRができれば良いと思う。

●委員

「少子高齢化」という言い方をよくするが、「高齢化」と「少子化」は全く別物であると考え方をもって、今後、総合計画を作るべきである。高齢化は高齢者が考えれば良いことである。できるだけ少子化に重点を置かないと人口問題は解決しない。

P D C A サイクルについて、やはり現状分析、把握、話し合い、意見交換がプランの前にあるべきだ。これがないと評価・検証が不十分で結局合併から10年であまり変わらないまま人口が減ってしまった。下松は増えたのに光は減っている。これが結果である。光市はこの評価・検証が疎かだと思う。これをしっかりやらないと今後10年で光市は消滅すると思う。

●委員

この最終案についての具体的な内容について各地域にどのように周知するか、そして各地域の公民館がコミュニティセンターと名前を変えて内容も変わってくるが、この変える意図と最終案を各地域にどのように反映させるか教えてほしい。

●委員

アクションプランの14ページについて、主な取り組みの中でプレミアム商品券については、地元購入を促進するためにも是非実施していただきたいと思う。今回の商品券についても市民の皆さんに喜んでもらえたいし、企業にとっても元気の出した施策だと思う。サービス業の生産性の向上に資する施策を考えてもらいたい。工業振興の関係では、ものづくりの支援も必要である。また、創業も大事だが、跡継ぎ不足も問題となっているのでそのあたりも考えてもらいたい。

●委員

以前は「Quality of life」と言って生活の質の向上が叫ばれていたが、現在はむしろ「Quality of death」つまり、死の質の向上が問われている。だからこれに係る取り組みが一つでもあれば戦略がより深まると思う。テレビで自然死に対する取り組みをやっていたが、光市においてもその取り組みを実施し情報発信し、死生観についての講習会などができれば面白いと思う。

●委員

この会議での意見の反映状況について示されているが、非常に良いことだと思う。会議での意見が文言として戦略の中に反映されることはとても良いと思う。ただ、内容が抽象的であるから、もっと具体的に内容や方法等について示してほしい。

戦略の中に「地域のコミュニティプラン（夢プラン）の策定支援」との項目が載っているが具体的にどのような意味合いなのか教えてほしい。

●委員

Iターンで4年前に引っ越してきたが、光の良さと逆に劣っている部分を感じている。「放課後児童クラブの充実」との項目があるが、他の自治体ではあるのが当たり前で年齢制限も小学校卒業までと緩やかであるので、もっと充実させてから載せたらよいと思う。

子供の医療費助成について、光市では小学校までは無料であるが、以前住んでいたところは高校卒業までが無料であるなど、他自治体よりも劣っている部分は他にもあると思うので、そのようなことを職員も色々調べてほしい。

●委員

今回の資料は回答も素晴らしく、行政の方が一生懸命されているので、少しでも協力できるように皆さんとともに頑張っていきたいと思っている。光市がいつまでも輝く、住みたい光市であってほしい。

●事務局

高齢化と少子化については、総合計画策定の中でも協議をしていきたい。現状分析についてもしっかりと行っていきたい。夢プラン作成に当たっては地域の役割、行政の役割がそれぞれあると思う。行政がすべきものについては戦略を改訂する中で取り入れる、あるいは総合計画の中に取り入れることにより反映させていくこととなる。

抽象的な表現が多いとの指摘について、交付金の活用を念頭に置いているためこのような表現になっており、事業によっては抽象的なものも混在しているのは事実である。趣旨は決まっていますが事業の具体的な内容が未定なものもあるため、諸事情によりこのような形になっていることをご理解いただきたい。

コミュニティプランの策定支援については、市職員が積極的に関わり支援させていただいているが、こういったことを意味するものである。

放課後児童クラブや子供の医療費については今から充実することを目指す方向性を書いているが、財政的な面もあって他市と比較すると不十分な点は確かにある。これにつ

いては今後の課題と考えている。

(2) 第2次光市総合計画について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

将来、人口が36,000人になった場合に光市における第一次、第二次、第三次産業の比率はどうなっているのか。どのような生活形態になっているのかというようなビジョンがあれば教えてほしい。

●事務局

この度の総合計画の中で、長期未来予測ということで計画の前提として20年後のまちの姿を示しながら展望をもとに、どのような取り組みをすべきかを考えることとなる。現時点では36,000人になった時の産業構造データは持ち合わせていないが、今後計画を策定する中で少しでも示させていただきたい。

4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・人口定住促進プロモーションビデオ「ひかりのまち」の受賞報告
- ・次回会議の開催時期は12月中下旬頃を予定

(光市人口ビジョン及び光市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るパブリックコメント結果報告及び各計画完成版の報告について)

- ・総合計画について3つ程度部会を設けることとし、次回会議時に一定の案を示す

第一部終了 20時30分

第二部 座談会

出席者 委員 5名（寒川、深来、梅本、岩佐、有竹）
事務局 7名

●委員

農業や漁業従事者の賃金が、第二次産業と同等のレベルにならないければ、一時的に都会から移住してきても、子供の代になった時に継いでいけなくなる。第一次産業をビジネスとして強化する施策を打ち出す必要がある。例えば中学校教育の中で第一次産業をアピールすれば考え方が変わる生徒もいるのではないか。

●委員

光丘高校に総合学科があるが、人が少ない。やはり大学進学を目指すため光高など普通科の高校に入る子供が多くなる。なかなか価値観を変えることは難しいと思う。

●委員

婚活については行政がやるものではなく、市民の力を活用し、各地域が計画してやるべきだと思う。

●委員

結婚して間もない若い人達を光市に呼び込めばいい。そのためにはやはり安定した仕事、良質な教育環境が重要である。

●委員

ヨーロッパでは共稼ぎで出生率も高くなっている。子育てシステムが構築されているので安心して仕事ができる状況にあるので参考にすべき。

第二部終了 21時00分